

新宮山彦ぐるーぷ第2191回

行仙宿補給路の段差改修作業

◇実施日 7月10日(日) 曇り時々小雨

◇参加者 沖崎吉信、梶野照雄、湯川一郎 3名

梶野君は最近、段差の改修などの土木工事に目覚めたのか、工事資材を造ったり工法を考えたり、と熱心に取り組んでいる。

今日もモノレール終点上の段差改修を単独で行うというので、沖崎、湯川の2名が手伝うことになった。

午前9時半、登山口に集合しチェンソーや工具類と碎石20kgをモノレールに積みスタートする。



今日の改修箇所



平板を運ぶ



工事中

今日の作業現場は、モノレール終点から以前生熊さんが木で橋を架けた場所までの段差補修で、腐った杭や桟木を取替えて新しい段差を構築することになる。

下方のカーブ地点の段差は6月19日に梶野君が改修済みで、10mほど上の段差を中心に作業を始める。

足場になる平板や丸太、杭などを運び、カーブの段差は梶野君、最後のステップは沖崎、湯川が担当した。



碎石を敷く



完工



行仙宿に到着

作業はおおむね順調に進んでいたが、材料を取りに行くため作業中の我々の横を通ろうとした梶野君が足を滑らせて後ろ向きに滑り落ちた。すぐ下の木で止まり大事には至らなかったが、一瞬ヒヤッとした。作業中はどんなことにもいつも以上の注意が必要だ。

その後の作業は順調に進み、全部で15段ほどの段差改修が終了。持ってきた碎石を敷き詰めて完工した。作業時間は1時間半で、終了時に小雨が降り出した。

チェーンソーや工具類が雨に濡れるので、梶野君は一旦モノレールで登山口に降りた。その間に沖崎、湯川の2名は行仙宿へ先行する。完成した新しい段差を見て実際に歩いてみるのは楽しい。改修前の状態を知っているだけに、歩きやすさに満足感を覚える。

行仙宿に着き雨戸を開けて風を通す。ストーブに水は溜まっていないが少し湿り気があり、湯川君が火を入れて乾燥を試みた。



平板を作る



本日の参加者



下山完了

昼食の後、梶野君はストーブの上の隙間を耐火パテで塞ぎ、丸太から切り出した平板に電気カンナをかけた。その間沖崎は不要の金網やネットを整理し持ち降ろす準備を整えた。

午後2時、戸締りを確認して不用品を手に下山した。

梅雨とその後の異常な暑さに加えコロナの第7派か急激な感染拡大もあって、この2〜3週間の小屋利用者は少ない。

今日は1時間半の作業でかなりの成果が得られた。これも材料の調達や加工、現場までの運搬、使用する道具類のデポなどの事前準備

備が十分であったためだと感じる。改めて段取りや準備の大切さを再認識した。

行仙宿補給路も要改修箇所が複数ある。行仙宿、平治宿の水場径も補修が必要だ。十分な準備をして、今後その改修作業を行う予定にしている。皆さんのご協力を是非お願いしたい。

(記：沖崎)

行動タイム

09：30 補給路登山口→09：50 モノレール終点・作業 11：30→12：00 行仙宿 14：03→15：10 補給路登山口